



ねやがわ ふるさと

「世界一を目指して」

ジョーキーボール選手 松岡 康暢

市出身の松岡康暢さん(31歳)が、壁に囲まれた箱型のコートでプレーする2人制のサッカー「ジョーキーボール」の世界大会に日本代表として初出場しました。

松岡さんは元プロサッカー選手で、平成17年〜20年はガンバ大阪に所属、その後、ロアッソ熊本、V・ファールン長崎に移籍し、活躍しました。

平成24年の現役引退後は、ガンバ大阪アカデミーコーチとして後進の指導に当たり、現在は、福岡県久留米市でサッカー教室を運営しています。松岡さんは高宮二丁目出身で、育所はあの人と同級生だったといいます。

「豪太郎(豪栄道関)とは休み時間によく相撲を取って遊んでいました。当時から豪太郎は強くて運動神経抜群でした」。その後、豪栄道関は大関に。そのときは松岡さんとても刺激をもらったと話していました。

小学校に入り、サッカー好きの兄と一緒に当時の寝屋川SSC(現在のSAKURAI UNITED FC)に入団することに。「純粹にサッカーが楽しかったし、小学校の友達もいたの

で、そこですますますサッカーにはまっていきましたね」。

そして、中学生になり、ガンバ大阪のジュニアユースに所属。同期には本田圭佑選手もいて、「一緒にプレーしていました」。

その後、ユースを経て、平成17年にガンバ大阪のトップチームに昇格しました。

ジョーキーボールは、福岡で出会った知り合いから誘われ、始めたのがきっかけです。

その後、ジョーキーボールの公式大会に出場し優勝できたことで、「壁を越えるサッカー」に大きな魅力を感じたといいます。

ジョーキーボールは「フィットネス・サッカー」とも呼ばれ、「楽しむ&健康」をテーマに、子どもからお年寄りまで、男女問わず誰でも楽しめるスポーツです。「一度やってみると、必ず楽しいと思うので、是非いろんな人にとってもらいたいですね」。

世界大会は、国別ワールドカップ・クラブワールドカップはいずれも予選敗退。しかし、チャンピオンズリー

グゴールデン

カップでは3

位とフェアプ

レー賞を受賞

しました。「大

会を通して、

世界との差を

とても大きく

感じました。

その中でも自

分たちの強み

である俊敏性

や技術面、粘

り強さは、世

界レベルにも通用した部分があり、そこは自信につながりました」。

「また来年もワールドカップがあるので、個人・チーム共に更なるレベルアップをして、再び日本代表として世界に挑戦したいです」と強い意気込みを語ってくれました。

20歳まで過ごした寝屋川市については、「実家に帰ると、心が落ち着くとともに、どんどん便利になっていく故郷に驚きます。熊本や長崎、福岡で生活してきましたが、やっぱり寝屋川は僕にとって特別な街です」。





地域の発案!こどもけいざいセミナー

9月9日に摂南大学で「こどもけいざいセミナー『お金と経済』」が開催され、市立成美小学校4年生～6年生11人が参加しました。

このセミナーは、成美小校区地域協働協議会青少年部会が「グローバル社会で生きていく子どもの育成のため、経済に親しむきっかけを」と発案し、摂南大学生と地域が連携した体験型学習として7月から3回にわたり開催されました。

最終回のこの日は、前回の商店街の取材で学んだことを新聞にして発表しました。参加した児童は、「お兄さん・お姉さんたちにいろいろ教えてもらいながらお金の流れを学べて楽しかった」と話していました。



市ふるさと大使豪栄道関の取組 パブリックビューイング

9月24日、大相撲秋場所千秋楽で、豪栄道関の取組のパブリックビューイングを市役所玄関ロビーで開催しました。会場には約300人の市民が駆け付け、市ふるさと大使・豪栄道関を応援しました。

優勝は逃しましたが、会場は大いに盛り上がりしました。また来場所での、豪栄道関の活躍に期待しましょう。



ことぶき野球交流

友好都市・和歌山県すさみ町

9月9日～10日に、大阪府軟式野球連盟寝屋川支部のことぶき野球チームがすさみ町を訪れ、寝屋川市・すさみ町都市提携友好事業「ことぶき野球交流大会」が行われました。

試合結果は、すさみ町チームが2勝し、10年ぶりに優勝しました。



若冲作 本物と鑑定

小杉誠一さん（87歳、国松町）は祖父から受け継いだ掛け軸を、美術品や骨とう品を鑑定するテレビ番組（2月放送）に出品したところ、江戸時代の名高い絵師、伊藤若冲（じゃくちゅう）の真作と判定されました。

鯉（こい）を描いた水墨画の軸で、長さ2メートル程。素人目にも迫力を感じ、本物と信じていましたが、以前、偽物と言われたことがあったそうです。無念を晴らせたとあって、「すっきりした」と笑顔で振り返りました。放送後は「今後の医療費などに」と売却し、縮小サイズの複製を飾って楽しんでいます。



びっくり 黒い雨がえる

9月下旬、打上元町の民家の庭で珍しい黒い雨がえるが見つかりました。体長約2・5センチ。ブルーベリーの葉に乗っていたそうです。

連絡を受けた市自然を学ぶ会（山田晃会長）が調べたところ、本来は緑色から黄緑色、褐色交じりのまだら模様まで、周辺と同じに体の色を変えて身を守りますが、体色を変化させる色素細胞に異常があるようです。このような個体は、まれに生まれても目立つため捕食されやすく、なかなか発見されないそうです。

発見者は「普通のかえると違う真っ黒な瞳がかわいらしい。長生きできるといいな、と思います」と言っていました。



水彩画で周囲を和ませています

特別養護老人ホーム「和の里」（高柳一丁目）に入所している中村省三さん（89歳）の水彩画が「周りを癒してくれる」と評判になっています。

かつて国鉄の機関士だった中村さんは、平成21年に入所し、リハビリを兼ねて筆を執りました。職業柄、SLの絵は緻密で躍動感に溢れ、花や仏に言葉を添えた絵も素朴な中に味わいがあります。「描いていると楽しい」とほぼ2日に1枚のペースで仕上げます。施設内と隣接する総合病院で展示していますが、広く一般に紹介する機会をつくるのができないか、ホームでは検討もしているそうです。



いしぶみ

碑

伝秦河勝墓(でん・は たのかわかつのはか) (川勝町)

寝屋川北岸の丘陵を上ると、住宅地の中に小さな空間がぽっかり現れます。中央に高さ2メートル余りの五輪塔があり、前に対の石灯籠、後方に方柱状の石塔が立っています。

五輪塔は聖徳太子の近臣、秦河勝の墓と伝わります。そこに刻まれた碑文は、河勝が秦始皇帝の生まれ変わりとして大和の国（今の奈良県）に生誕したこと、また元の墓石は豊臣秀吉の文禄堤に利用され、江戸時代の地誌に記載されるなど、古くから名高い塔だったようで、今も地元の人々が清掃などをして守っています。

寝屋川北岸の丘陵を上ると、住宅地の中に小さな空間がぽっかり現れます。中央に高さ2メートル余りの五輪塔があり、前に対の石灯籠、後方に方柱状の石塔が立っています。

河勝は京都・太秦の広隆寺建立で有名です。寝屋川市には河勝を先祖とする家があり、周辺には川勝町、秦町、太秦などの地名、川勝山太秦寺まであります。

江戸時代の地誌に記載されるなど、古くから名高い塔だったようで、今も地元の人々が清掃などをして守っています。